

二〇二六年二月七日

縁結びの神樟さやぐ春隣	なつき
鳥どちの声の身近に春隣	わかば
風花や暫くは傘ささぬまま	こすもす
風花や富士の峰より降り来たる	きりん
風花の舞ひて安らぐ苔の上	よし女
遠出へと浮き立つ心春隣	わかば
風花や足高々と神馬跳ぬ	なつき
お薄受く緋毛氈へと風花す	康子
ご朱印をもとむ乙女ら春隣	なつき

若鮎句会秀句・みのる選・二〇二六年二月九日